2024 年　医事課の『現況』

医事支援部長心得　兼　医事課長　竹﨑　智博

◆2024 年の現況

2024 年は、理事長の交代や診療報酬改定があり、近森会グループにとって大きな変化があった一年であった。

2 月は、医事会計システム I-BARS Ⅱ のサポート終了に伴い、Ⅲへのバージョンアップを行った。2 日間、医事会計システムを停止し、更新を行った。

3 月は、医事課より診療報酬改定の全体説明会を行った。入院料の全ステージで見直しが行われ、これまでにない厳しい改定となった。入院基本料の通則では、ACP の策定、身体拘束最小化が新たに追加され、栄養管理体制が見直しとなった。今後、入院基本料の通則が 5 基準から 7 基準に拡大となる。

医師の働き方改革で問題視されていた ICU・救命救急病棟の宿日直の取り扱いについて、宿日直扱いの医師の配置は認められないことが明確化された。この見直しにより、医師の配置を「主治医制」から「チーム制」へ見直し、勤務体制を「日勤」「準夜」「深夜」の 3 交代制へ変更した。今後は、休日日勤、休日夜勤に入った場合は、振替休日が発生する。この見直しは、全国的にも大きな影響が出ており、多くの病院で宿日直での配置が可能な ICU5・6 や HCU への届出変更が生じており、経営悪化を招いている。

その他、高齢者の急性期病棟への入院が要介護度を悪化させている問題については「リハビリテーション・口腔・栄養管理体制加算」が新設され、当院は 9 月より算定を開始した。

また、本来、三次救急で診るべきでない高齢患者が救急搬送されている問題に対して「救急患者連携搬送料」が新設された。当院では、6 月より算定を開始し、現在 39 医療機関と連携し、1 ヶ月あたり 10 件前後の下り搬送を行っている。

賃上げについては、新設されたベースアップ評価料や入院基本料等の点数アップ分を財源に、基本給の改善及び事務職員を含む全スタッフに手当の支給を行った。

入院時食事療養費については、1 食あたり 20 円の引き上げがおこなわれたが、食材費の高騰には追い付かず、赤字幅はさらに増大している。食事療養費についても、全国の医療機関で赤字になっており 2025 年 4 月から、さらに 20 円引き上げられる予定である。

3 月には、看護師不足により SCU 病棟の閉鎖を余儀なくされた。今後、脳卒中患者はその他の集中病棟及び 6BC 病棟で対応する。

4 月は、目標であった「急性期充実体制加算」の算定を開始した。課題であった「悪性腫瘍手術 400 件以上」については、前年度よりも消化器外科（+23 件)、消化器内科（+7 件)、泌尿器科（+8 件）となり、施設基準を達成することができた。

9 月は、10 月から施行される長期収載品の選定療養費制度の対応を薬剤部と電子カルテ管理課と協力して行った。今後、医師は長期収載品の処方が医学的に必要な患者については、処方時に医学的理由を選択頂く。

10 月は、管理部の再編が行われた。再編により、総務部、財務部、経営企画部、医事支援部、

危機管理部の 5 つに再編され、医事課は医事支援部の所管となった。

医事支援部は、医事課、診療情報課、電子カルテ管理課が管轄となっており、今後は、各課が協力して診療現場の支援を行って行く。

10 月後半には、マイナ保険証の利用率向上のため、カードリーダーを 3 台から 7 台に増設した。マイナ保険利用推進の声がけやチラシの配布も併せて行った結果、2024 年 12 月診療分では 36%と大幅に利用率がアップした。

◆医事課での対応業務について

医事課では、施設基準の届出、病床機能報告や補助金の申請補助や、各種アンケートの対応をおこなった。具体的な対応事項は、以下の通りです。

〔医事課での対応事項〕
・2024 年度診療報酬改定に伴う届出（四国厚生支局）
・施設基準定例報告（四国厚生支局）
・病床・外来機能報告（様式 1）（様式 2）（厚生労働省）
・救命救急センター充実段階評価（厚生労働省）
・救急病院等の更新（高知市保健所）
・病院経営定期調査（日本病院会）
・令和 5 年度「病院運営実態分析調査」（全国私立病院連盟）
・地域医療支援病院業務報告書（高知県健康政策部医療政策課）
・外国人患者の受入れに係る実態調査（厚生労働省）
・入院・外来医療等における実態調査（厚生労働省）

◆医事課の配置状況について

医事課職員は、近森会グループで **91 名**（2025 年 1 月 1 日現在）となり配属数は以下の通りです。

▶近森病院　**80 名**（産休・育休を含む）
（課長席）1 名
（入院係）18 名
（受付係）19 名
（計算カウンター）17 名
（文書係）9 名
（カルテ室）4 名
（未収金係）5 名
（地域医療連携センター）3 名
（カルテ搬送）2 名
（産休・育休中）2 名
▶近森リハビリテーション病院　**6 名**
▶近森オルソリハビリテーション病院　**4 名**
▶訪問看護ステーションちかもり　**1 名**

2024年には8名の退職があり、新たに2名の採用を頂きました。

（入職）
2月　森光　叶
4月　田内　ジュリアマリア

（退職）
1月　濱田　華
2月　岩戸　遥佳
3月　横田　真帆
6月　福山　舞
7月　伊芸　静那
7月　岡林　舞乃
8月　岡　翼
9月　松木　由季

（異動）
なし

（2024年リーダー）
・吉本　良美（入院係）
・西谷　和美（入院係）
・橋田　優依（入院係）
・小松　友加（入院係）
・山崎　祥子（受付係）
・岩城　雅　（計算カウンター）
・片岡　春佳（文書係）

（昇格）
6月　筒井　大知　医事課 主任心得
4月　竹﨑　智博　医事課長　→　医事部長心得 兼 医事課長
10月　竹﨑　智博　医事部長心得 兼 医事課長　→　医事支援部長心得 兼 医事課長

次頁へ

◆DPC 係数について

昨年に引き続き医療機関群は“DPC 特定病院群”となり、医療機関係数は、1.5822（前年比+0.0131）となった。項目別内訳は、以下の通り。

機能評価係数Ⅰは、前年比 +0.0023 となった。増加の要因は、賃上げ対応による入院基本料の増点及びその他改定で評価が上がった項目の影響であった。但し、出来高点数では見直しがなかった項目でも係数が下がっているものがあり、予想以上に係数は上がらなかった。

機能評価係数Ⅱは、保険診療係数が廃止され、「救急医療係数」が「救急補正係数」へと名称変更となり機能評価係数Ⅱから分離され別建ての評価となった。

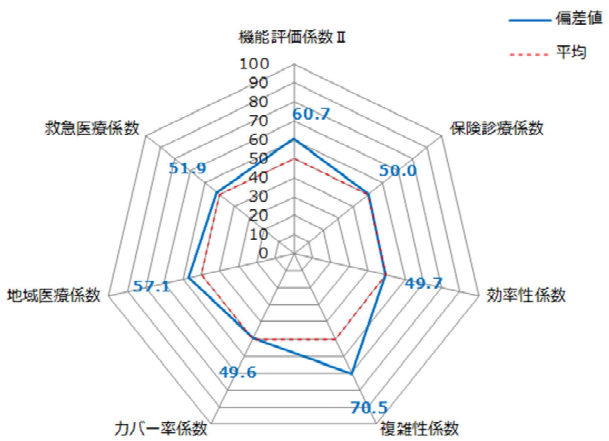
機能評価係数Ⅱを偏差値で見ると、救急補正係数は、前年比+5.8 ポイントとなった。前年と比較すると緊急入院が増加していることが要因と思われる。効率性係数は、これまで全国で多い疾患の在院日数が短縮すると係数が高くなる仕組みであったが、自院で多い疾患を短縮すると係数が上がる仕組みへ見直しが行われた。平均在院日数も前年と比較すると短縮しており、前年比+4 ポイントとなった。カバー率係数に関しては、年間 12 症例以上ある DPC は増加したものの、偏差値は、7.7 ポイント下がっており、低下の原因は不明である。

医療機関別係数　比較

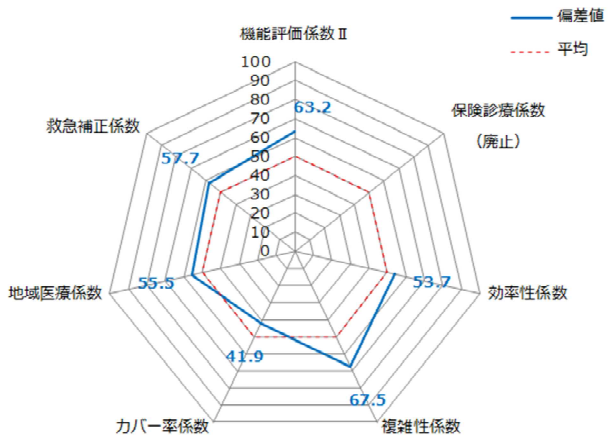
	2023.12	2024.12	2024-2023
医療機関群	DPC 特定病院群（Ⅱ群）	DPC 特定病院群（Ⅱ群）	
基礎係数	1.0680	1.0718	+0.0038
機能評価係数Ⅱ	0.1304	0.1082	▲0.0222
機能評価係数Ⅰ	0.3707	0.3730	+0.0023
救急補正係数		0.0292	+0.0292
医療機関別係数	1.5691	1.5822	+0.0131

機能評価係数Ⅱ、救急補正係数の偏差値

2021年10月～2022年9月



2022年10月～2023年9月



◆施設基準の届出状況

2024 年の新規の届出状況は、以下の通り

算定月	区分	施設基準
2024.4	新規	急性期充実体制加算　精神科充実体制加算
2024.4	新規	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る）
2024.5	新規	周術期栄養管理実施加算
2024.6	新規	精巣温存手術
2024.6	新規	再製造単回使用医療機器使用加算
2024.6	新規	医療ＤＸ推進体制整備加算
2024.6	新規	緊急穿頭血腫除去術
2024.6	新規	外来・在宅ベースアップ評価料Ⅰ　（医科・歯科）
2024.6	新規	入院ベースアップ評価料
2024.6	新規	抗菌薬適正使用体制加算（感染対策向上加算 1 の注 5）
2024.6	新規	遺伝カウンセリング加算
2024.6	新規	ストーマ合併症加算
2024.6	新規	画像診断管理加算 3
2024.6	新規	救急患者連携搬送料
2024.6	新規	検体検査管理加算Ⅱ
2024.6	新規	がん薬物療法体制充実加算（外来腫瘍化学療法診療料の注 9）
2024.7	新規	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術・腋窩郭清を伴うもの伴わないもの）
2024.7	新規	歯科外来診療医療安全対策加算 2
2024.7	新規	歯科外来診療感染対策加算 3
2024.7	新規	重症患者搬送加算（救急搬送診療料の注 4）
2024.8	新規	経頸静脈的肝生検
2024.9	新規	リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算

◆2024 年の診療実績について

2024 年の統計資料を振り返ると、近森病院の新入院患者数は+304 人で、外来患者数は ▲4,104 人となった。平均在院日数は、12.2 日で前年より+0.1 日となった。救急搬入件数は、6,919 件（前年比▲26 件）で、うち入院は 3､758 件（前年比▲63 件)、入外比率は、54.7%（前年比▲0.7%）となった。

紹介患者数は、+647 件で、逆紹介患者数は▲1,567 件となった。

紹介患者数は、整形外科の内視鏡ヘルニア手術や循環器内科のアブレーションへの紹介件数の増加が影響した。

外来患者数は減少傾向にあるものの、逆紹介の件数は減少している。紹介受診重点医療機関の制度をまだ十分理解していない医師もいることから、医師には当院の役割をしっかりと理解して頂き、状態が落ち着いた患者は速やかに地域の医療機関にお願いしていく必要がある。

2024 年の近森会グループの診療実績は、以下の通りです。
近森会グループの診療実績

近森病院（急性期）

	2023	2024	前年比	前年比率
外来患者数	141,672	137,568	-4104	-2.9%
入院患者数	10,913	11,217	304	2.8%
退院患者数	10,914	11,178	264	2.4%
延入院患者数	137,621	133,811	-3810	-2.8%
病床利用率	83.4%	85.2%	1.8%	2.2%
平均在院日数（急性期）	12.1 日	12.2 日	0.1	―
手術件数	4,035	4,188	153	3.8%
救急搬入件数	6,945	6,919	-26	-0.4%
紹介患者数	6,096	6,743	647	10.6%
逆紹介患者	20,766	19,199	-1567	-7.5%

近森病院（総合心療センター）

	2023	2024	差異	前年比率
外来患者数	31,485	31,164	-321	-1.0%
入院患者数	229	217	-12	-5.2%
退院患者数	249	238	-11	-4.4%
延入院患者数	17,203	16,363	-840	-4.9%
病床利用率	78.6%	74.5%	-4.0%	-5.1%

近森リハビリテーション病院

	2023	2024	差異	前年比率
外来患者数	14,822	15,031	209	1.4%
入院患者数	682	681	-1	-0.1%
退院患者数	668	679	11	1.6%
延入院患者数	53,904	55,144	1,240	2.3%
病床利用率	88.7%	94.2%	5.5%	―

オルソリハビリテーション病院

	2023	2024	差異	前年比率
外来患者数	11,302	12,853	1,551	13.7%
入院患者数	563	651	88	15.6%
退院患者数	566	658	92	16.3%
延入院患者数	32,739	31,813	-926	-2.8%
病床利用率	89.7%	86.9%	-2.8%	―